

パスロジ(4426)

中小企業のDXとテレワーク導入支援のため、パスロジック・クラウド版に加えてリモートデスクトップ新製品投入
 TOKYO PRO Market | アプリケーションソフトウェア | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG 4426:JP | REUTERS 4426.T

- 2021/6通期は、売上高が前期比6.2%減、営業利益が同31.4%減、経常利益が同30.9%減、当期利益が同22.4%減だった。
- テレワークとDXの堅調な需要を受けてパスロジック提供数が拡大したが、コロナ禍を受けた前期のテレワーク特需の反動減で減収減益。
- 「パスロジック・クラウド版」とリモートデスクトップ「Splashtop with PassLogic」が中小企業のDXおよびテレワーク導入を支援しよう。

What is the news?

2021/6通期は、売上高が前期比6.2%減の4.00億円、営業利益が同31.4%減の1.13億円、経常利益が同30.9%減の1.20億円、当期利益が同22.4%減の8,563万円、年間配当金が同13.00円減配の42.00円。感染症対策によって喚起され常態化しつつある「テレワーク」、および政府機関や各業界企業で活発化している「デジタル変革(DX)」によってITセキュリティ業界の製品需要が維持されるなか、同社の主力製品の「パスロジック」は「不正アクセス防止に最適な本人認証システム」として採用が進み、期末におけるパスロジック方式利用製品の提供ID数が同約8.3万件増加の139万件と順調に拡大。その一方で、前期に新型コロナウイルス感染症対策として多くの企業がテレワークシステムの導入・規模の拡大を行ったことの影響により減収となった。

利益面では、粗利率が売上原価における労務費の増加が響いて前年同期比8.2ポイント低下の74.3%へ、販管費率が人件費の増加により同2.3ポイント上昇の46.0%へ悪化したこともあり、減益に繋がった。

同社は新規技術(特許技術)の開発に力を入れている点に特長があり、特許取得件数は2021年6月末時点の累計で105件(うち日本国特許は33件)に達した。2020年が5件、21年1-6月が5件と堅調に伸びている。

How do we view this?

2022/6通期会社計画は、売上高が前期比22.0%増の4.88億円、営業利益が同13.1%増の1.28億円、経常利益が同5.8%減の1.13億円、当期利益が同11.0%減の76百万円。既存顧客の保守サポート、および通信・クラウド事業者向けライセンス提供による売上の堅調な推移を見込む一方で、費用面で中長期的な事業拡大に伴う人員採用や本社移転、および新製品の販売促進とブランド価値向上のための広告宣伝費増加を想定している。

業務システムのクラウド化およびその中小企業へのスムーズな導入への対応を考慮して2020年3月より提供開始した「パスロジック・クラウド版」の売上への貢献のほか、中小企業のテレワーク導入支援のためにパスロジックを組み合わせるワンタイムパスワードで守られた環境で高速リモートデスクトップサービスを利用できる「Splashtop with PassLogic」の提供を今年7月に開始。今後の成長への貢献が期待されよう。

業績推移

事業年度	2019/6	2020/6	2021/6	2022/6F
売上高(百万円)	300	426	400	488
経常利益(百万円)	89	174	120	113
当期利益(百万円)	59	110	85	76
EPS(円)	59.63	110.33	85.66	76.22
PER(倍)	8.39	4.53	5.84	6.56
BPS(円)	230.33	297.52	361.78	-
PBR(倍)	2.17	1.68	1.38	-
配当(円)	25.00	55.00	42.00	-
配当利回り(%)	5.00	11.00	8.40	-

(出所:会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=会社予想)

配当予想(円) - (会社予想)
 株価(円) 250 2021/10/5(基準値)

会社概要

2000年にワンタイムパスワードの新技术「パスロジック方式」のライセンス供与・管理を目的に設立。本人認証技術の中核とした認証セキュリティソフトウェアの開発、販売を主体とするソフトウェア事業を行っている。

2004年にパスロジック方式を活用した認証サーバーソフトウェア製品「PassLogic-AS」の販売を開始。2006年には従来の技術ライセンス供与を中心とする方針を変更し、自社ソフトウェア開発メーカーとして本格的に事業展開することを決定。2007年末には複数の特許技術を活用し、パスロジック方式を2経路で認証することでセキュリティを強化した「PassLogic」の販売を開始した。2014年には大規模ユーザーにも対応可能にした後継製品「PassLogic エンタープライズ版」の販売を開始。2019/6時点、パスロジック方式利用製品の発行ライセンス数は累計117万件に上り、同社の主力製品となっている。

2018/12/19にTOKYO PRO Marketに上場した。

パスロジック方式は、小川秀治代表取締役社長が1997年に考案した「乱数表から抜き出してワンタイムパスワードを生成する」システムであり、同システムは2000年に米国特許を取得。パスロジック方式を製品化した企業・団体向け認証セキュリティソフトウェア「PassLogic」は、ログインのたびに乱数表に記された数字がすべて刷新されるため、シークレットパターン通りに数字を抜き出せばパスワードが毎回新しいものになる仕組みとなっている。

企業データ



主要株主(2021/9/30)	(%)
1.小川 秀治	66.10
2.小川 美樹子	10.00
3.小川 遥香	9.00
4.小川 穂波	9.00
5.石井 裕一郎	2.15

(出所:会社公表資料をもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

1. 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。
2. 当社は、東京証券取引所の定める「特定上場有価証券に関する上場規程の特例」(以下「特例」)第102条の規定に基づき、発行会社の担当J-Adviserに就任する旨の契約を締結いたしております。また、当社は、「特例」第135条に定める流動性プロバイダーであり、発行会社株式の円滑な流通の確保に努めるほか、流動性プロバイダーとしての義務を負っています。